

北海道石油コンビナート等防災計画修正（案）新旧対照表

現行計画	修正案	解説
<p>北海道石油コンビナート等防災計画 目次（略） 防災計画編 第1編 総則 第1章～第4章（略）</p> <p>第5章 特別防災区域の概況</p> <p>1 （略）</p> <p>2 各地区及び特定事業所の概況</p> <p>○ 釧路地区</p> <p>(1) （略）</p> <p>(2) 気象（平年値（昭和56年～平成22年）） 年平均気温は6.2℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く21.2℃（極値32.4℃）、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-10.4℃（極値-28.3℃）である。年平均風速は4.9m/s、年降水量は1,042.9mmである。</p> <p>(3)～(6)（略）</p> <p>○ 苫小牧地区</p> <p>(1) （略）</p> <p>(2) 気象（平年値（昭和56年～平成22年）） 年平均気温は7.6℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く23.1℃（極値35.5℃）、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-8.3℃（極値-21.3℃）となっており、年平均風速は3.3m/s、年降水量は1,197.9mmである。</p> <p>(3)～(6)（略）</p> <p>○ 室蘭地区</p> <p>(1) （略）</p> <p>(2) 気象（平年値（昭和56年～平成22年）） 気候は比較的温暖で、冬季の積雪量も少ない。</p>	<p>北海道石油コンビナート等防災計画 目次（略） 防災計画編 第1編 総則 第1章～第4章（略）</p> <p>第5章 特別防災区域の概況</p> <p>1 （略）</p> <p>2 各地区及び特定事業所の概況</p> <p>○ 釧路地区</p> <p>(1) （略）</p> <p>(2) 気象（平年値（平成3年～令和2年）） 年平均気温は6.7℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く21.5℃（極値33.5℃）、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-9.8℃（極値-28.3℃）である。年平均風速は5.0m/s、年降水量は1,080.1mmである。</p> <p>(3)～(6)（略）</p> <p>○ 苫小牧地区</p> <p>(1) （略）</p> <p>(2) 気象（平年値（平成3年～令和2年）） 年平均気温は7.9℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く23.4℃（極値35.5℃）、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-8.1℃（極値-21.3℃）となっており、年平均風速は3.2m/s、年降水量は1,239.2mmである。</p> <p>(3)～(6)（略）</p> <p>○ 室蘭地区</p> <p>(1) （略）</p> <p>(2) 気象（平年値（平成3年～令和2年）） 気候は比較的温暖で、冬季の積雪量も少ない。</p>	<p></p> <p>平年値の更新に伴う修正</p> <p>平年値の更新に伴う修正</p> <p>平年値の更新に伴う修正</p>

北海道石油コンビナート等防災計画修正（案）新旧対照表

現行計画	修正案	解説
<p>年平均気温は8.6℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く23.4℃(極値32.8℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-4.2℃(極値-13.4℃)となっており、年平均風速は4.7m/s、年降水量は1,184.8mmである。</p> <p>(3)～(6) (略)</p> <p>○ 北斗地区</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 気象 (平年値 (昭和56年～平成22年))</p> <p>気候は比較的温暖で、年平均気温は9.1℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.8℃(極値33.6℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-6.2℃(極値-21.7℃)となっており、年平均風速は3.7m/s、年降水量は1,151.7mmである。</p> <p>(3)～(6) (略)</p> <p>○ 知内地区</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 気象 (平年値 (昭和56年～平成22年))</p> <p>気候は比較的温暖で、年平均気温は8.6℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.0℃(極値34.1℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-6.0℃(極値-15.6℃)となっており、年平均風速は2.4m/s、年降水量は1,309.3mmである。</p> <p>○ 石狩地区</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 気象 (平年値 (平成2年～平成22年))</p> <p>年平均気温7.7℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.3℃(極値34.6℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-9.1℃(極値-23.1℃)である。年平均風速は3.0m/s、年降水量は978.8mmである。</p>	<p>年平均気温は8.9℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く23.6℃(極値32.8℃)、日最低気温の月平均値は1月及び2月が最も低く-4.0℃(極値-13.4℃)となっており、年平均風速は4.6m/s、年降水量は1,188.9mmである。</p> <p>(3)～(6) (略)</p> <p>○ 北斗地区</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 気象 (平年値 (平成3年～令和2年))</p> <p>気候は比較的温暖で、年平均気温は9.4℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.9℃(極値33.9℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-6.0℃(極値-21.7℃)となっており、年平均風速は3.6m/s、年降水量は1,188.0mmである。</p> <p>(3)～(6) (略)</p> <p>○ 知内地区</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 気象 (平年値 (知内:平成17年～令和2年、木古内:平成3年～令和2年))</p> <p>気候は比較的温暖で、年平均気温は8.9℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.1℃(極値34.1℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-5.7℃(極値-15.6℃)となっており、年平均風速は2.3m/s、年降水量は1,633.1mmである。(気温・風速については木古内アメダス、雨量については知内アメダスの平年値を記載)</p> <p>○ 石狩地区</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 気象 (平年値 (平成3年～令和2年))</p> <p>年平均気温7.9℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.5℃(極値35.4℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-9.0℃(極値-23.1℃)である。年平均風速は2.9m/s、年降水量は993.8mmである。</p>	<p>平年値の更新に伴う修正</p> <p>平年値の更新に伴う修正</p> <p>平年値の更新に伴う修正</p>

北海道石油コンビナート等防災計画修正（案）新旧対照表

現行計画	修正案	解説
<p>(3) ~ (6) (略)</p> <p>—以下省略—</p>	<p>(3) ~ (6) (略)</p> <p>—以下省略—</p>	

2 各地区及び特定事業所の概況

○ 釧路地区

(1) 地 勢

南は太平洋に面し、後背に根釧原野を抱える釧路川河口部に位置する東北海道
の拠点であり、コンビナート地区は釧路市街地の臨海部に位置している。

(2) 気 象（平年値（平成3年～令和2年））

年平均気温は 6.7℃、日最高気温の月平均値は 8 月が最も高く 21.5℃（極値
33.5℃）、日最低気温の月平均値は 1 月が最も低く -9.8℃（極値 -28.3℃）であ
る。年平均風速は 5.0m/s、年降水量は 1,080.1mm である。

(3) 産業経済

水産、石炭、紙パルプ及び観光を基幹産業として着実に発展してきた。

200 海里問題や石炭政策の変更等による産業経済への影響が懸念されるが、漁
獲高の安定した推移や工業出荷額の着実な伸びなどに支えられ、道東の拠点都市
となっている。

(4) 港湾及び船舶出入数（数値は平成29年～令和元年の3年間平均である。）

昭和26年に重要港湾の指定を受けている。

昭和44年から西港区の建設に着手し、平成21年に西港区第3埠頭に国際コン
テナターミナルを開設し、ガントリークレーンを設置した。

入港船舶は、総数で約9,900隻、輸移出入貨物の総量は約1,530万トンとなっ
ている。

(5) 道路、鉄道及び陸上輸送

西港区域付近をJR根室本線が東西に走り、道路は、道道釧路西港線で国道38
号線に結ばれ、さらに国道44号線と国道240号線が接続し国道や道道等の幹線
道路が放射状に広がっている。

また、北海道横断自動車道、釧路外環状道路や地域高規格道路の整備など、交
通アクセスの充実が着実に進んでいる。

(6) 特定事業所

特定事業所は、総数4事業所（第1種3事業所、第2種1事業所）で、石油等の貯蔵
基地的性格を有しており、石油等の貯蔵取扱数量は概ね27万kl、液化天然ガスの
処理量等は概ね39万Nm³となっている。

○ 苫小牧地区

(1) 地 勢

本道の中央部に広がる石狩低地帯の南に位置し、支笏・洞爺国立公園の樽前山の麓にひらかれ、南に太平洋を望み、北は空港を擁する千歳市と接している。

コンビナート地区は苫小牧西港に形成される西部臨海工業地帯と苫小牧東部地域内の苫小牧市と厚真町に位置している。

(2) 気 象 (平年値 (平成3年～令和2年))

年平均気温は 7.9℃、日最高気温の月平均値は 8 月が最も高く 23.4℃ (極値 35.5℃)、日最低気温の月平均値は 1 月が最も低く -8.1℃ (極値 -21.3℃) となっており、年平均風速は 3.2m/s、年降水量は 1,239.2mm である。

(3) 産業経済

製紙工業の単一都市として発展してきたが、苫小牧港の開発とともに石油精製、自動車、電力、木材のほか化学、非鉄金属、配合飼料などの多種多様な企業が立地し、一大臨海工業地帯を形成している。

また、苫小牧東部地域は、広大な用地と流通機能を持つ大型港湾、隣接する新千歳空港など交通の要衝に位置した立地特性を生かし、産・学・住・遊の複合開発を目指した北海道開発の拠点として発展が期待されている。

(4) 港湾及び船舶出入数 (数値は平成29年～令和元年の3年間平均である。)

昭和38年4月開港と同時に重要港湾の指定を受け、昭和55年10月苫小牧東港の開発、さらに昭和56年5月には特定重要港湾に昇格し、工業ばかりでなく流通拠点としての役割も大きく、北日本最大の国際貿易港として北海道経済の発展に大きな役割を果たしている。

入港船舶は約 14,400 隻、輸移出入貨物の総量は約 1 億 800 万トンとなっている。

(5) 道路、鉄道及び陸上輸送

国道 36 号線が東西に走り、国道 235 号線が地区の東側を南北に通っている。北海道自動車縦貫道が国道 36 号線の北側を通っており、また、国道 235 号線と平行して日高自動車道が通っており、都市間的高速輸送に寄与している。

鉄道は JR 室蘭本線が地区の北側を、日高本線が国道 235 号線と並行している。

(6) 特定事業所

特定事業所は総数 13 事業所 (レイアウト規制 3 事業所、第 1 種 6 事業所、第 2 種 4 事業所) で、石油精製及び貯蔵基地を基幹としている。

石油等の貯蔵取扱量は概ね 1,331 万 kl、高圧ガス処理量は概ね 11,615 万 Nm³ となっている。

このうち、苫小牧東部工業基地内の石油備蓄基地において、民間備蓄と国家備蓄とを合わせ概ね 850 万 kl の原油が貯蔵されている。

○ 室蘭地区

(1) 地 勢

本道南西部噴火湾の入口に湾曲状に突き出た絵鞆半島とその北部の丘陵地帯からなっている。

コンビナート地区は室蘭港を囲む臨海部に位置している。

(2) 気 象 (平年値 (平成3年～令和2年))

気候は比較的温暖で、冬季の積雪量も少ない。

年平均気温は 8.9℃、日最高気温の月平均値は 8 月が最も高く 23.6℃ (極値 32.8℃)、日最低気温の月平均値は 1 月及び 2 月が最も低く -4.0℃ (極値 -13.4℃) となっており、年平均風速は 4.6m/s、年降水量は 1,188.9 mm である。

(3) 産業経済

鉄鋼、機械、造船、石油精製、セメント等の重化学工業都市として発展し、本道産業の先導的役割を担ってきた。

しかし、鉄鋼、造船などの構造的不況による合理化の促進に伴い、人口が著しく減少するなど地域経済に大きな影響を受けたが、先端産業の誘致や蓄積された高度な技術を生かし、「ものづくりのマチ」として環境産業拠点都市を目指している。

(4) 港湾及び船舶出入数 (数値は平成29年～令和元年の3年間平均である。)

室蘭港は天然の良港で古くから工業港として発展し、昭和40年には特定重要港湾の指定を受け、近年では、国内フェリー航路や外航コンテナ等の海上ネットワークにより、物流港として重要な役割を果たしている。

入港船舶は総数で約 5,000 隻、輸移出入貨物の総量は約 2,090 万トンとなっている。

(5) 道路、鉄道及び陸上輸送

幹線道路として国道36号線、37号線があり、36号線は輪西から母恋まで自動車専用道路 (室蘭新道) となっている。また、北海道縦貫自動車道が市の北側を通過し、室蘭ICにより接続されている。

さらに室蘭港を跨ぐ東日本最大のつり橋である白鳥大橋 (全長 1,380m) が平成10年6月に完成し、幹線道路の環状線化が実現されている。

鉄道はJR室蘭本線が国道に沿って走っており、コンビナート地区にも臨港鉄道が敷設されている。

(6) 特定事業所

特定事業所は総数7事業所 (レイアウト規制2事業所、第2種5事業所) で、製鉄を基幹としており、石油等の貯蔵取扱量は概ね 211 万 kl、高圧ガス処理量は概ね 377 万 Nm³ となっている。

○ 北斗地区

(1) 地 勢

本道の南部に位置しており、東に函館市と接し、南は函館湾に面している。

コンビナート地区は、北斗市街地から東の函館湾に面している。

(2) 気 象 (平年値 (平成3年～令和2年))

気候は比較的温暖で、年平均気温は9.4℃、日最高気温の月平均値は8月が最も高く25.9℃(極値33.9℃)、日最低気温の月平均値は1月が最も低く-6.0℃(極値-21.7℃)となっており、年平均風速は3.6m/s、年降水量は1,188.0mmである。

(3) 産業経済

農業、水産業など第一次産業とセメント、石油貯蔵等第二次産業の中心基地として着実に発展してきた。

今後、北海道新幹線の開業効果による更なる発展が期待される。

(4) 港湾及び船舶出入数 (数値は平成29年～令和元年の3年間平均である。)

函館港湾の一部を形成する地域にあり、函館港の入港船舶は総数で約12,100隻、輸移出入貨物の総量は約3,260万トンとなっている。

(5) 道路、鉄道及び陸上輸送

函館湾と並行して国道228号線及びコンビナート地区の中心を縦断する国道227号線が通っている。

鉄道は、コンビナート地区の中心に道南いさりび鉄道線が敷設されている。

平成27年3月、函館新外環状道路(函館IC・赤川IC間)が開通し、函館新道、函館・江差自動車道(函館IC～茂辺地IC間が平成24年3月までに開通済)とともに、函館圏の高速交通ネットワークを形成している。

(6) 特定事業所

特定事業所は総数2事業所(第1種2事業所)で、石油等の貯蔵基地的性格を有しており、石油等の貯蔵取扱量は概ね45万klとなっている。

○ 知内地区

(1) 地 勢

本道の南部、渡島半島の南西部の海岸沿いに位置しており、コンビナート地区は知内市街地から南の津軽海峡沿いに位置している。

(2) 気 象 (平年値 (知内 : 平成 17 年～令和 2 年、木古内 : 平成 3 年～令和 2 年))

気候は比較的温暖で、年平均気温は 8.9℃、日最高気温の月平均値は 8 月が最も高く 25.1℃ (極値 34.1℃)、日最低気温の月平均値は 1 月が最も低く -5.7℃ (極値 -15.6℃) となっており、年平均風速は 2.3m/s、年降水量は 1,633.1 mm である。

(気温・風速については木古内アメダス、雨量については知内アメダスの平年値を記載)

(3) 産業経済

農業、漁業などの第一次産業で古くから発展し、木材加工や食料品製造業も盛んとなっている。

近年は「ニラ」「ほうれん草」や「牡蠣」「マコガレイ」の生産に大きな成果をあげており、これらの健康志向特産品のブランド化を目指している。

(4) 道路、鉄道及び陸上輸送

国道 228 号線が津軽海峡沿いに東西に走っている。鉄道は青函トンネルの開口部から山間部を北海道新幹線が通っている。

(5) 特定事業所

特定事業所は 1 事業所 (第 1 種事業所) で、石油等の火力発電用の貯蔵基地である。

石油等の貯蔵取扱量は概ね 22 万 kl となっている。

○ 石狩地区

(1) 地 勢

本道の日本海側に臨む石狩湾沿岸のほぼ中央に位置し、道内の政治・経済の中心である札幌市に最も近く位置している。

コンビナート地区は石狩市街地から西の石狩湾新港地区に位置している。

(2) 気 象 (平年値 (平成3年～令和2年))

年平均気温は 7.9℃、日最高気温の月平均値は 8 月が最も高く 25.5℃ (極値 35.4℃)、日最低気温の月平均値は 1 月が最も低く -9.0℃ (極値 -23.1℃) となっており、年平均風速は 2.9m/s、年降水量は 993.8mm である。

(3) 産業経済

古くから水産業、農業を基幹産業として栄えてきたが、近年では、石狩湾新港の開発による発展で、石狩市の産業経済基盤としてはもとより、日本海沿岸地域と一体となって全国的な物流拠点となっている。

(4) 港湾及び船舶出入数 (数値は平成29年～令和元年の3年間平均である。)

昭和48年に重要港湾の指定を受け、平成18年に多目的国際ターミナルの核となる西地区-14m岸壁が共用され、平成27年7月現在、計画27バースのうち20バースが共用されている。

また、平成23年にLNG機能に係る日本海側拠点港に選定され、平成25年に北海道における災害時緊急物資輸送等の機能を確保する目的で耐震強化岸壁として整備されるなど、ハード・ソフト両面から、利便性の高い港湾空間の形成を目指している。

入港船舶数は約1,700隻、取扱貨物量は約650万トンとなっている。

(5) 道路、鉄道及び陸上輸送

国道231号線が地区の東側を南北に走り、国道337号線が地区の南側を東西に走っている。鉄道はJR函館本線が地区の南側を、国道5号線と並行している。

(6) 特定事業所

特定事業所は、3事業所 (第1種1事業所、第2種2事業所) で、石油等の貯蔵基地的性格を有しており、石油等の貯蔵取扱量は概ね23万kl、高圧ガス処理量は概ね193万Nm³、液化天然ガスの処理量等は概ね1,469万Nm³となっている。